

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 1F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	令和2年10月	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設10年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面でお声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の皆さんに支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅地にありながらも前面道路を公営バスが走り、近隣には幼稚園や小・中・高校が点在する文教区となっている。コロナ感染症の影響により、家族との面会や外出の機会、地域交流やボランティアの受け入れなど全てにおいて制限された生活ではあるが、職員のアイデアにより室内活動の充実を力を入れている。開設当初よりホームの医療支援に関わる地域の医療機関は目と鼻の先にあり、担当医による定期往診や、看護師の配置により24時間医療連携体制が確立しており、多くの家族が希望する入居者の最終の時まで支えている。看取り支援後のカンファレンスにあたり全職員にアンケートを取り、介護職員や食事担当者がそれぞれの立場から、細やかな評価と課題を見出し、チームケアに徹している様子が文章からも推察された。今後も家族の信頼に応え、地域密着型事業所としての新たな取組が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おむつはずし夜間入浴 ユニットケアの 法人最大リネン を元にして 地域に根ざした 作りを目指している ただ平均要介護度が上昇したことにより 新しい状況に応じた 取り組みも始めてきている	法人理念を継承し、夜間入浴やオムツ、眠剤に頼らない支援を基本姿勢として、入居者個々の残された能力を生かし、出来る事で役割を担ってもらおうとする内容を掲げている。長年の取組が入居者・家族に受け入れられているが、高齢化が進む中であって課題も表出している。	職員は、法人の姿勢を貫きながらも入居者の現状に照らし排泄用品を検討し、希望する入浴時間を個別に聞き取るなど、新たに取り組んでいる。今後も入居者の意向に沿い、必要とされるケアの実践が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ数年 自治会総会にも参加させて頂いた 中で、自治会の年間行事の情報を頂き、その中で、お年寄りにもなじみのあるお地蔵祭り等に参加できた。回覧板の情報も掲示を実施している。	コロナ感染症により毎年関わってきた地域行事(隣接する自動車学校の行事や子供会の地蔵まつりなど)が中止となっている。ホームは数年前から自治会に加入しており、総会への出席や回覧板のやり取りから地域情報を収集し、収穫祭の折には人々へトイレを開放するなど地域貢献にも努めている。入居者は川沿いの散歩に出かけながら道行く人々と言葉を交わし、地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近では 日常的に散歩を日課に組み入れているため 一般の方との挨拶をする機会が増えた その時に近くにグループホームの話 を話題にすることもある。また収穫祭の時期には地域住民のためにトイレを提供した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ数年 風水害に対する避難訓練や法人の取り組み等を運営推進会議の中で実施し、ご意見をもらっている。今年はノロウイルス感染拡大のため 10月に初めて開催。以外の月は書面による承認対応の形になった	地域包括支援センター職員や地域代表者の協力により、定期開催が実現していたが現在は2か月毎にホームの現状を書面にて発信している。会議を利用し参加者とともに風水害を見据えた避難訓練を実施したり、身体拘束や虐待について新聞報道などの事例をもとに意見交換を行う等、参加者の生の声をホーム運営に反映させている。	行政・地域・ホームが一体となり、お互いの情報を共有して更なるケアの向上を図る機会であり、今後は家族に参加の機会を打診することで、意見の拡充にもつながると思われる。また、会議内容については家族へ報告の機会が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給の入居者が多いため 保護課との連は携密に行えている。またコロナウイルス感染拡大により実施できなかった会議等を含め、介護事業指導室に相談を行い、事業所運営に支障をきたさないようにした。	地域包括支援センターからの運営推進会議への参加により、地域福祉の現状やホームの状況を共有し、適切なアドバイスを受けている。本年度はコロナ禍における面会の制限などについて行政の動行や、新聞報道などを総合的に判断し、状況が変化するたび面会の可否が家族が通達されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会 3か月毎の身体拘束廃止委員会 を開催。スタッフの情報共有や 資質向上に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し、職員は研修会を通じてホームの現状を共有し、課題を決めて話し合い、更なる意識向上を図っている。防災上の点から裏口フェンスのカギを撤廃したことにより、離設につながった過去の例などについては、運営推進会議の議題として参加者の意見を求めている。現在、センサーマットを利用する入居者はおられず、職員は言葉使い、特にスピーチロックについて注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で 虐待防止に関する研修の実施を行っている 特に昨年は 熊本市内のグループホームで 虐待死事件が起きたため 運営推進会議の中でも 話題を取り上げ皆様からの意見を聞いて ホームの運営に 反映させるようにした		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在生活保護 受給者が多い為、主にそれに関する相談や支援、また介護保険の手続きの仲介や行政サービスの対する支援情報提供も 合わせて行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者の経験年数が経ってきており、契約に関する質問等にもこまめに答えが出来るようになってきた。特に金銭面に関する ご家族からのご相談が多いため 生活保護に対する対応も含めた 細かな質問にも 答えが出来る様になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	令和2年度は新型コロナウイルスの影響で家族会が一度も開催できなかったかその都度面会での情報交換を実施。昨年より一部家族と始めたメールでの情報交換で、繁忙や遠地の利用者との連携が大幅に向上した。	コロナ感染症についてはその都度行政の指示を仰ぎながら、面会の可否を決定し、可能な場合には窓越し面会に対応している。現在は広報紙(こせん便り)の継続により、入居者の月毎の表情を写真や文章で家族に送付し、電話やメールで意見を聞き取っている。家族からの要望により、壁面の写真掲示が更に充実している。入居者の要望は普段の関わりから聞き取り、言葉が少なくなっても行動で示されるなど職員は入居者の表情や動きにも注意を払っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の定例会議に管理者が参加 その時に法人本部からの意思伝達についてスムーズに行えるようにホーム会議の開催日と定例会議と同一日に実施するように変更した	月のホーム会議で意見を出しあい、ケア向上や業務改善に反映させている。職員の要望から整理整頓を目的として新たに棚を購入し、有給取得に力を注ぐ他、管理者は個別の相談事に応じ職員のメンタルに配慮している。法人全体で統一すべき事柄については会議の中で周知を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革の導入により年5日以上の有給休暇を全員指摘している また 今まで曖昧だった 休憩時間をきっちりと取れるようになり スタッフの疲労感を軽減させるような勤務体制に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年 新人職員のトレーニング期間を2週間と長く取ることが出来る様になり 業務の基礎を築きやすくなってきている。またいくつかのルーティンワークを他の職員と持ち回りで実施するようにして職業能力の向上を図り日々		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか参加出来なかった 地域密着型サービス連絡協議会のブロック会合に、昨年 参加ができた 今年度はコロナウイルス感染拡大の影響で会合が中止中だが、今後再開後参加を行いた事業者との連携等も測れるよう努力する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の話に耳を傾け、ゆっくり聞くことを大切にしている。会話の中にある不安、要望など聞き逃さないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と個別に話し合いを機会を持ち、要望や不安などを聞き取りを行っている。必要時には連絡を行い、状況を報告し情報を共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族が安心して生活できるように、必要としているサービスを代弁するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや洗濯もの畳み、食器拭きなどできることをスタッフとともに行って頂き、毎日の生活を担えているという自覚を待っていただけるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事やイベントなどの案内を行い、参加を募っている。ご利用者とご家族と一緒に過ごせる機会を持ち楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまで生活されてきた環境が維持できるように努めている。居室に写真や大切にされたいものを置いたりしている。	理・美容店など馴染みの場所への外出も現在は中止されている。コロナ禍以前には神社の初詣に出かけ、各ユニットで新たな年を祝い、節分やひな祭りなど季節行事に参加する入居者の笑顔の写真が残されている。外出が難しい中で川沿いの散歩や満開の桜を2階ベランダから愛でたり、おでん鍋を囲んでユニットの交流を図るなど、出来る事で馴染みの関係継続に努力している。	普段からホーム内(1階・2階のユニット)をお隣さんとして行き来することで、更なるきずなも深まるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置にも配慮し、会話や交流ができやすい環境作りに努めている。また、関わりができるようにスタッフがご利用者間の間に入り、関りが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所された先の問い合わせ等に応じ、ご利用者の必要な情報提供を行っている。また、逝去された方のご家族がその後も遊びの来られ、ご利用とも交流を図っていただいている。イベントなどの案内を行い、参加を募っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話、表情、行動等からご利用者の思いを聞いたり、感じたりしてきずいた事をスタッフ間で共有し、ケアに活かしている。困難なご利用者については、ご家族から情報を頂き、ケアに繋げている。	日々の生活の中から入居者の思いを聞き取り、ホーム生活に反映させている。法人共通の慕礼ノートや個別記録、ケア会議から個々の入居者の情報を共有し、一人ひとりに合わせた声掛けや発言を誘導しながら意向を把握している。表現困難になられても表情や普段の行動から推し量り、プランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や連携シートなどにより情報収集を行っている。またご本人やご家族からの意向を伺い、今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズム、心身の状態を把握し、小さな変化に気づくように注意している。状態に変化が生じ時もスタッフ間で情報を共有し、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族から意向を伺いケアプランに反映している。定期的なモニタリングを行い、変更が生じた場合は、ご利用者、ご家族と話し合いを行い現状にあったプランの見直しを行っている。	プラン作成にあたり入居者本人が最も望まれるところを優先し、家族や職員の意向を反映した内容としている。入居者の中には自ら発せられることが少なくなっているが、その人らしい生活を継続するために少ない会話や表情から思いをくみ取り、終末期には看取り専用のプランを作成している。定期的に評価し、内容の見直しを行い、現状に沿ったものとなるよう変更や継続すべき点を見極めている。プランの内容は担当者よりわかりやすく説明されており、全員の了承が得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきは個別に記録し、定期的に評価を行っている。暮れノートを活用し、各フロアのご利用者の状況をスタッフが情報共有しており、変化が生じた時の介護計画も見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を仰ぎながら医療機関や専門職のアドバイスを受け、連携を図っている。また外出など個別に対応が必要な場合は、スタッフのシフト作成時より計画を立て対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を行い、地域資源の把握に務めている。現在はコロナ過……		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人、ご家族のご希望がある場合は引き続き、かかりつけ医への受診を行っていたくようにしている。その場合も、急な体調変化があったときには、協力医からの診療も受けられるよう、ご家族の了承も頂き、協力医への情報提供を行っている。	本人・家族の希望に応じたかかりつけ医を支援している。現在、協力医による2週間に1回の往診と、状態に応じて診察が行われている。地域にある協力医の存在は、家族やホームにとっても心強く、安心に繋がっており、看護職員を中心に指示やアドバイスを受けながら、入居者の健康を管理している。歯科については、必要に応じて訪問診療が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康状態について、ホームの看護師が把握し、体調の変化があった場合は、その都度、報告、相談を行っている。夜間は24時間オンコール体制を離れ、状態に応じた対応や処置を行っている。また、必要時には直ぐに受診できるような支援を行っている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院野際には、利用者様の身体的状況、内服状況、生活状況を詳しく記載し、文書で情報提供している。早期退院ができるよう、ご家族や医療機関との連絡を密に取り合いながら、受け入れ態勢を整えるよう務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の指針を説明し、ご本人・ご家族の医師を確認している。状態が重度化した場合は、ご家族、主治医、看護師、スタッフで、状況変化がある度に話し合いながら、今後の方針を決めている。看取り支援も行っており、ご本人、御家族の希望を優先できるよう配慮し、安らかな最後を迎えられるよう、スタッフ間での話し合いをしながら介護を行っている。	入居時に重度化した場合の指針をもとに家族に説明を行っている。継続した医療支援が必要でなければ、ホームでの最終を支援しており、6月と10月にホームで長い間過ごされた方の支援が行われている。殆どの方がホームでの看取りを希望されており、状態に即した出来得る支援に努めている現状である。看取り支援後は、本人を偲びながら振り返りの時間を持っており、職員アンケートを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の中で、急変時の対応方法や、事故発生時の対応を確認している。また、緊急時の対応方法の訓練、救命救急法の勉強会を消防署から講師に来て頂き、年1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会の中で年1回講義を実施、また昨年までは、6月の運営推進会議で風水害対応の避難訓練を実施。令和2年7月豪雨、令和2年台風10号の接近時には、実際の緊急避難体制をとった。実際に管理者不在の中で実践が出来た。	3月に消防署のアドバイスにより机上訓練と6月に運営推進会議の中で風水害を想定した訓練を実施している。家族からも台風接近時に、ホーム付近の河川の増水を心配する連絡を受け、管理者は増水時には全員2階に避難し、防風の際は1階に避難することや職員を増員する事などを説明し、安心につなげている。	マニュアルの整備も行われており、今後もあらゆる災害を想定し、机上を含め訓練などに努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前は、必ず「さん」をつけて呼ぶ。排泄の声かけは回りの人に配慮して行う。入浴や排泄時は、バスタオルタオルなどをかけ、周囲の目に触れないように配慮している。	排泄や入浴支援時の声掛けや誘導方法などプライバシーに配慮した対応や、呼称はさん付けを徹底し、馴れ合いのやり取りなどについても周知を図っている。身だしなみやおしゃれについても、家族の協力を得ながら衣類の選択や化粧品の使用、髪形など希望に沿って取り組んでいる。起床時の洗顔や保湿をはじめ、髭剃り、爪切りなど職員は特に小まめな確認を行い支援している。	個人情報や守秘義務については、研修会などでも周知徹底に努めている。現在、コロナ感染症への対応として、玄関先に置かれた来訪者の検温チェック表については、個別記入が望ましいと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、会話や交流を心掛け、会話が可能な方は聞き取りを行い、意思の確認を行っている。発語が困難な方は、イエス・ノーの意思表示ができるような問いかけで意思の確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや散歩などの希望される方は、参加して頂いている。また、手伝いの声掛けに応じられれば、洗濯畳み・食器拭きなどを手伝ってもらう。自室で過ごされる時間も自由で、おやつ・食事時間には声かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着られる衣服は、起床時に声かけしてご本人に決めて貰っている。朝食前には、洗顔(タオル拭き)・整髪を行っている。髭剃りや爪切りなど気づいたときに、声かけ・援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの聞き取りや食事摂取量を確認し、食べたい物を提供できるように努めている。一緒に食事をする中で、状態の変化などに確認、状況に応じ形態を変えたりしている。食事の前後には小分けや食器拭きなどを、手伝ってもらっている。	各ユニットを1軒の家として、開設時からそれぞれの献立表を作成し、職員による手作りの食事提供が継続されている。職員も同じものを食べる事で思いを共有し、バランスの良い食事は勤務へのエネルギーにもなっている。食材は週2回専門の業者から配達され、入居者も届いた新鮮な食材を見たり、手にしながら調理方法など職員と一緒に検討している。盛り付けや器などにも配慮しており、入居者のの楽しみや家族の安心に繋がっていることは、聞き取りや記録物から確認された。	ホーム内での調理は職員配置などからも大変なこともあると思われるが、入居者の楽しみな食事支援が継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態により、捕食を摂取してもらう。毎日食事摂取量を確認し、少なくなっているような場合は、スタッフ間で情報を共有し、食事の形態や提供方法などを検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い、できる方は自分で行ってもらい、できない方は付添い、できない部分について声掛け、援助している。夕食後には義歯を預かり、洗浄して翌朝装着してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導表を基に、利用者様の排泄感覚を把握、スタッフ全員で情報共有をしている。日中は共用トイレでの排泄を基本とし、利用者様の排泄状況に応じた尿取りパット等を使用している。夜間は各居室にポータブルトイレを設置し、お一人ひとりの排泄間隔に応じて声かけを行い、できるだけトイレでの排泄を促している。	排泄は入居者の尊厳にもつながることを法人全体で共有し、個々のパターンや誘導方法を職員間で共有し、支援に努めている。日中は布パンツのみやパットを併用し、夜間はポータブルトイレを使用される方もおられる。トイレ内は臭気を含め清潔を心掛け気持ちよく使用できるようにしている。	排泄支援においてはホームの姿勢と併せ入居者にとって最良の方法について、職員間で意見交換が行われている。今後も入居者の現状に沿った支援に努めていかれる事を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけ、食物繊維を多く含む食材を使用している。午前中のおやつにきな粉牛乳やヤクルトを取り入れるなど、できるだけ下剤を使用しないで自然な排泄が出来るように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を積極的に取り入れている。ただし、その日の体調を記録で確認しながら、夕食の前後で入浴して頂いている。完全な介助が必要な利用者様にも、洗髪・洗体は勿論、足湯や十分なかけ湯を実施している。	週3回の入浴を自立されている方を先に、介助が必要な方を後に支援している。また、希望に応じ夕食後の入浴を2~3名の方が楽しまれている。湯舟にゆっくり浸かってもらうことや、足浴、季節湯(菖蒲・柚子)などは、継続して行っているが、現在は「入浴の楽しみとしては減っている」と、管理者は語っている。	入浴の楽しみも個々に応じて異なることから、引き続き職員のアイデアや工夫が期待される。季節湯などの際は前もって、イラストを付けた告知のポスターなどを掲示することで、来訪の家族との会話にも繋がると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の入床される時間やタイミングに基づき、支援を実施している。一旦、眠られたあとで再度目覚められ、リビングに来られた際にはお茶を提供するなどの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届くと、はじめに薬剤情報文章で、確認する。処方薬が変更していれば、申し送りや、ケース記録に綴じるなど、職員間で共有できるようにしている。服薬支援後は確実に与薬できたかを、口腔内に飲み残しはないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の手入れが好きな利用者様にはホームの庭でガーデニングをして頂いたり、気分転換にホームの近くをスタッフ付き添いのもと、散歩をするなどの対応をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各利用者様で果物や、飴などの嗜好品、常時在庫を確保する為、利用者様とともに、買い物を実施しているが、現在はコロナ禍のため見送っている。	コロナ感染症への対応から、これまで行っていた地域交流を兼ねた外出などは控えているが、天候の良い日は、介護度の高い方も車いすを使用し、坪井川への散歩などを継続している。また、庭先の花の手入れや日光浴など個々に応じて外気に触れる機会をもっている。家族との外出を含め、以前のような外出ができる日を、入居者や職員は心待ちにしている。	外出を控えなければいけない現状であるが、今後も外出に代わるホーム内での楽しみ事を取り入れていかれる事を期待したい。また、旅行雑誌や旅のビデオ、DVD視聴など外出気分を味わえる取り組みも有効と思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様や利用者様の状況に応じて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、利用者様の顔写真をご家族様への年賀状に貼り、職員のメッセージを添えて送っている。また、希望時はご本人に代わり、ご家族様に電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに利用者様の各行事で楽しまれている様子の写真や、季節感を感じさせるイラスト、利用者様が作られた塗り絵などを飾るなどを行い、玄関に植物や食事テーブルに花を活けるなどされ楽しまれている。	各ユニットは職員の工夫により、外出や入居者の作品、壁面制作の掲示など、季節感や楽しみを感じてもらえるように努めている。また、敷地内や散歩中に、入居自ら摘まれた草花も、テーブルなどに飾られている。コロナ感染症への対応として、特に衛生管理に努めており、室温管理や掃除、換気など最良の方法を収集しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはテーブル席とソファ、畳の間があり、テレビの視聴や、体操や音楽を聴くなどされ、個人にあった過ごし方をされている。利用者様同士の関係も考慮し、他のテーブルで過ごせるようにするなどして、見守りや声かけを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様が持参された思い出の写真などが飾ってある。花壇を造るなど、利用者様の趣味を活かして過ごせるようにしている。	契約の際自宅に居るように安心して過ごしてもらえるよう、馴染み品などの持ち込みを依頼しており、入居後も本人・家族と相談しながら居心地の良い空間作りを進めている。採光も良く近隣地域を眺めながら過ごせる2階や、掃き出し窓からはすぐに庭先に出られ、植木や観葉植物をベランダに置かれた部屋など自宅に居るような雰囲気である。家具や衣類をはじめ持ち込みに多少はあるものの、職員は安全に配慮した整頓と、不必要な整理で逆に残存能力を生かせない方など、個々に応じて支援している。	コロナ禍にあって家族の来訪が制限されており、引き続き居室内の状況や必要な品の伝達など、家族の安心に繋げていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、利用者様個人に合ったベッドの配置や高さになっている。高さ等は安全性を考慮したうえで、本人様の使い勝手が良いように配置をしている。更にADLや認知症に伴い、安全性も考慮し、動きやすい品物や家具の配置になるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 2F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	令和2年10月	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設10年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面で声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々に支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた考え方を基に利用者のお一人お一人の残された能力を活かして自立支援を行う。平均介護度が上がってきている事によりスタッフ、ご家族と話し合い状態に応じた取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントにも参加できるように1年間行事に組み込み、地域の夏祭りや年末の餅つきなどのイベントに参加している。今年度は、新型コロナウイルスにより参加は中止としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近では、散歩を日課として取り入れ、近隣の方と出会う機会も増えあいさつ等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き実際に利用者とはふれあう機会をつくり実際に行事の中に会議のメンバーも入ってもらい意見交換を行い相互の理解を深めてもらっている。今年は新型コロナウイルス感染拡大のため10月に初めて開催。以外の月は書面による承認対応の形になった		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者が多くなり、保護課との連携を行い情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会、3カ月毎の身体拘束廃止委員会を実施、身体拘束の問題として取り上げることで、業務の中に潜在していることを把握する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で虐待防止を行っている。行政が行う外部の講習会に参加し、職員全体への復命講習会を開き虐待の防止について話し合う。虐待の問題として取り上げることで、業務の中に潜在していることを把握する。虐待の通報の義務や罰則規定等についての周知をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての講習会に参加して、施設内での勉強会を開き権利擁護の現状について理解を深めることで日常生活自立支援事業や成年後見人制度の内容の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金の説明、食費や居住費のことについて説明を行う。サービス内容や重要事項説明などを行い利用開始して頂いている。不明な点などいつでも聞いて頂ける様にコミュニケーションを図る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	令和2年度は新型コロナウイルスの影響で家族会が開催できていない。面会時や、必要時は電話にて情報交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、個別でのやりとを行い、職員からの意見を集約するように務めている。又月に一度定例会が開催されており、本部からの伝達事項などは同一日にホーム会議を行いスムーズに伝達できるように務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員が学びたい事を基に研修会や講習会などへの参加を計画し、職員全体へのスキルアップのため伝達講習会などを開く。施設全体の資質向上に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会や行政からの研修会などへの参加をすることで、近年の問題点などを学ぶことで自分達に足りない事などを理解した上で、感じたことをスタッフ間で話し合い。職員間の士気の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所で行われている意見交換会に参加して実際に直面していることなど、重要なことから些細な事まで意見交換の場としてお互いの交流の場所としている。今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問を行い、毎日のリズム、趣味、体調等、情報収集を行い、スタッフ間で共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い本人様の性格や健康面を把握し、ご家族様も安心して頂けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用様とご家族の要望など聞き優先順位を考えながらできるだけ、その意に添えるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの向き不向きを考慮し洗濯物たたみ、食器拭き、歌、塗り絵等能力に合わせた生活を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各種イベント事にご家族にお誘いし参加するだけでなく一緒に楽しめるようにしている。又、面会時には近況報告し関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の歴史を振り返りながら利用者様の好きな事ができる環境を整えている。又、面会が出来ない時期は電話での取り次ぎも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	距離を保ちながら体操等を行い、テーブル席も性格などを考えながら安心して生活できるように努めている。出来ない人も出来る人から教えてもらう環境も構築されつつある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった後もご家族や利用者様の転移先へ連絡をしたり訪問して関係を保っている。又、イベントでは参加のお誘いを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族との会話の中で希望を知り希望の把握に努める。自己決定が難しい方には望まれる事の予想を立て返答し易いよう二者択一の質問を心掛け本人の意向に近付くよう努めている。又、細かい情報交換・共有は常に気掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の中での趣味を把握し本人が楽しめるように支援する。又、趣味を通して家族やユニット別など本人と他者との関わりを広げるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日共に過ごしてできる事できない事を把握する。それを踏まえ心身の状態に変化があった場合記録に残す。又、情報を職員が自ら集める事を基本に、更に職員間での情報共有を行ない、心身共により良い生活を送って頂ける様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所前情報と入所後の本人家族の思いや意向を基に、本人らしいプラン作りに努めている。職員はこのサービス内容で良いのか自問自答スタッフ間で話し合い、ホームの暮らしの中でもより本人らしい暮らしが出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の毎日の変化に気をつけ介護者が考える工夫を実践し記録に残し、更に一ヶ月・数ヶ月前の記録と比べどう変化したのかを把握しプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の希望を取り入れサービス提供を行っている。食事に関しては嚥下状態やその日の状態に応じて食事形態の変更を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へのお誘いに参加させて頂いている。又、面会も含め来訪された方と一緒に趣味を楽しんだり作品を展示する事で、生活の中で心が豊かになって頂けるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族のご希望がある場合は引き続き、かかりつけ医への受診を行っていただくようにしている。その場合も、急な体調変化があったときには、協力医からの診療も受けられるよう、ご家族の了承も頂き、協力医への情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の健康状態について、ホームの看護師が把握し、体調の変化があった場合は、その都度、報告、相談を行っている。夜間は24時間オンコール体制をとり、状態に応じた対応や処置を行っている。また、必要時には直ぐに受診できるような支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院野際には、利用者様の身体的状況、内服状況、生活状況を詳しく記載し、文書で情報提供している。早期退院ができるよう、ご家族や医療機関との連絡を密に取り合いながら、受け入れ態勢を整えるよう務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の指針を説明し、ご本人・ご家族の医師を確認している。状態が重度化した場合は、ご家族、主治医、看護師、スタッフで、状況変化がある度に話し合いながら、今後の方針を決めている。看取り支援も行っており、ご本人、御家族の希望を優先できるよう配慮し、安らかな最後を迎えられるよう、スタッフ間での話し合いをしながら介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会の中で、急変時の対応方法や、事故発生時の対応を確認している。また、緊急時の対応方法の訓練、救命救急法の勉強会を消防署から講師に来て頂き、年1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	勉強会の中で年1回講義を実施、また昨年までは、6月の運営推進会議で風水害対応の避難訓練を実施。令和2年7月豪雨、令和2年台風10号の接近時には、実際の緊急避難体制をとった。実際に管理者不在の中で実践が出来た。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレを使用する際は必ず扉を閉めるように徹底している又、排便状況の確認を行う際は利用者様が1人でおられる時に小さな声で聞くなど誇りやプライバシーを守っている。人生の先輩として敬語を使用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中から聞いたことで希望を探るだけではなく聞いた内容を詳しく調べこちらから質問をするなどこちらからもできる限り関わりを持ち支援や本人の自己決定に役立っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆様同じことをしてもらうのではなく、その方のペースや体力・能力に応じて出来ることやりたいことを見守りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を自分で選べる方には選んで頂き、出来ない方はスタッフが好み等を把握したうえで数点取り出し選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る前には利用者様にどんな物を食べたいかなどを聞きメニューを決め食材の切り込みや取り分けなどを一緒にして頂いている。又四季に合わせた材料を発注するなど季節感を楽しんで食事をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況や能力に応じて食事の形態やメニューを考えながら提供している。水分は食事の前後は基本的に常に脱水にならないように保水を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助を要する方は声掛けやジェスチャー等を使いながらなるべくご自身でしていただき磨き残しなどをお手伝いするようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導表を基に、利用者様の排泄感覚を把握、スタッフ全員で情報共有をしている。日中は共用トイレでの排泄を基本とし、利用者様の排泄状況に応じた尿取りパット等を使用している。夜間は各居室にポータブルトイレを設置し、お一人ひとりの排泄間隔に応じて声かけを行い、できるだけトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけ、食物繊維を多く含む食材を使用している。午前中のおやつにきな粉牛乳やヤクルトを取り入れるなど、できるだけ下剤を使用しないで自然な排泄が出来るように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	法人の取り組みにて夜間入浴を実施しているが、入浴拒否のある時は本人の気持ちに向くまで待ち、昼間や別の日の入浴を支援している。又、着替えを準備できる方には好みの着替えを準備頂いたり、仲の良い利用者同士入浴されたりその時に応じて対応を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様で入床されるタイミングは違うので、それに基づいた支援をしている。又前日の睡眠状況等をスタッフ間で共有し眠れていない方には状況や状態を考えて休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録ファイルに利用者様ごとに、薬剤情報提供書をファイルし、スタッフがいつでも確認できるようにしている。内服薬の変更があったときはNsが申し送りノートへの記載をし、周知できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	心身の状態、状況に合わせ食事の盛り付けや食器拭き、洗濯物たたみ等、負担にならないように手伝い頂き役割を持つことで生きがいを感じて頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルスにて遠出の外出は出来ないも、天気の良い日は近場を散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人から希望があればその都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、必要に応じ支援を行っている。個別で郵便物が届いた場合はその都度、対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花や季節に応じて行事の写真を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内では馴染みの方と関わりが持てるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に長年使われていた物を持ち込んで頂き、本人が過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に考慮し家具の配置を工夫して御本人が過ごしやすい環境作りを行っている。		